

享月 日 薬斤 局 2025年(令和7年)6月1日(日)

# ものづくり 現場体感 静岡でも

## 町工場公開「ファクハク」昨年は31社に2千人



部品加工を手がける村田ポリリング技研では「溶射」

## 知名度高め人材確保へ

ふだん外部には見せない町工場の内部を一般に公開し、ものづくりの現場を体感してもらう「ファクハク」静岡工場博覧会が今秋、開かれる。全国的に広がりを見せる「オープンファクトリー」の一環で、静岡市では今年で3回目。会社を多くの人に知ってもらい、人手不足など直面する経営課題の打開策にもつなげたい考えだ。(長橋亮)



青島園車製作所での工場見学の様子。見学者はヘルメットをかぶって説明を聞いた。いずれも静岡市駿河区、静

昨年のファクハクでは、静岡市内の製造業など31社が見学者約2千人を受け入れた。業種は金属加工や医療機器の製造、水産加工など多岐にわたる。1937年創業の理研縣金属工業(静岡市駿河区)は昨年初めて受け入れた。アルミを使った建築部材が主力で、取引先



## オープンファクトリー 課題解決、中小連携で

など関係者以外には工場を見せることはこれまでなかったが、2時間のコースは定員20人で満員になった。当日は、東京ドーム1個分の広さがある敷地内を案内。アルミニウム製品をどうやって加工し、製品にするか、担当者が紹介した。見学者向けに、製品を保護するための養生シートをきれいに貼れるかを競うコンテストも開き、優勝者にはアルミ製の指輪を贈った。

ファクハクを立ち上げたのは、静岡市清水区の板金加工業「山崎製作所」の山崎かおり社長だ。2009年に先代の父を継いだ。販路拡大のため県外で営業した時、「静岡市でもものづくりのオープンファクトリーに参加を検討する企業向けに、昨年の参観企業との担当者説明会を開き、オープンファクトリーを

SHIZUOKA OPEN FACTORY 35

# 6月1日(日)朝日新聞にファクハクの記事掲載 望月将人さんが掲載されました!

て珍しいですね」と言われ、悔しい思いをしたという。静岡市内には、製造業だけでなく農業や水産業など幅広い産業があり、自分たちのような町工場も多い。地場産業が存在を広く発信していく必要があると痛感した。金属加工業がさかんな新潟県の燕三条地域などで、工場を広く公開するオープンファクトリーが開かれているのを知り、「静岡でもできないかと」経営者の仲間らに相談。23年に第1回を開いた。市内の町工場の多くは大企業の下請けとして技術を磨いてきたが、最終製品を手がけるケースは少なく、社名が表に出る機会は限られる。そのため、学生の採用活動にも苦戦を強いられていた。ファクハクを通じて、山崎製作所は専門学校生のインターンを受け入れることができた。中には、採用に至った企業もあるという。

オープンファクトリーは、多くの中小企業が抱える知名度不足や採用難といった課題の解決策の一つとして注目されている。日本政策投資銀行によると、地域の企業同士が連携して開くオープンファクトリーは製造業が集積する関東や、伝統工芸が盛んな北陸などで広まった。全国での実施回数は、20年の31件から24年には65件へと倍増した。県内では今年3月に焼津市で「すけえら焼津オープンファクトリー」が開かれ、水産加工など17社が見学者を受け入れた。

政投銀関西支店の田中京さんは「外部との接点を持ちつらい工場が、顧客のニーズを把握し、認知度を高める手段として有効だ。雇用創出も十分に期待できる」と話す。

### 今年10月開催

今年のファクハクは、10月17日・19日に開く。参加したい企業の申し込みは6月末までホームページで募っている。

カラー充実 紙面ビューアー



はこちら